



確かな学力の向上をめざして【1月】

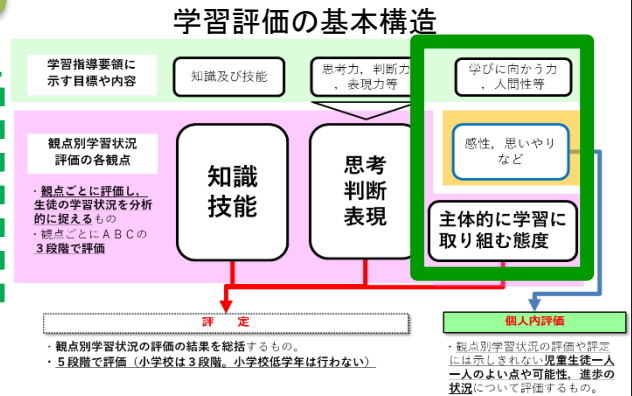
■学習評価 ～「主体的に学習に取り組む態度」について～

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理され、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。今回は「主体的に学習に取り組む態度」について、詳しく見ていきます。

「主体的に学習に取り組む態度」とは

「学びに向かう力、人間性等」には、

- ①観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分
→「主体的に学習に取り組む態度」と、
- ②観点別学習状況の評価にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分（感性、思いやりなど）があります。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、**粘り強く学習に取り組む**、その中で**自らの学習を調整**しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

「粘り強く学習に取り組む」ってどんな姿？



「自らの学習を調整する」ってどんな姿？



生活科での事例を通して確認してみましょう。

「主体的に学習に取り組む態度」の見取り ～ 小学校 生活科を例に ～

- 単元名 「いきもの大さき」 第2学年 生活科 内容(7)「動植物の飼育栽培」
- 学習活動(概要) 第1・2小単元で、児童はモルモットのことを学び、モルモットの立場にたった世話の仕方ができるようになってきた。第3小単元では、これまで学んだことや感じたことを盛り込んで、自分だけのモルモットの本を作る活動を行う。以下の作文は、これまでの自分とモルモットとのかかわりを振り返ったもの。

◆評価規準：モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

「成長できた自分自身に気付いている」と見取ることができる。

手袋なしで抱っこしようと自ら手袋を外して試みている姿を、**自分の活動を見つめなおし、学習を調整しようとする姿**として見取ることができる。

ぼくはメルからちてみる心とかんばる心をもらいました。せいはいはだ、こでなからけと、友だちがちてみるのを見ながら、てみようかなと思いました。せいはいは、しつまいをました。つぎに、ちぶくろをつけてちてみました。ちぶくろをつけてちてみました。今では、ちぶくろがないでも、キマ、こんと、はぼくの生、そのもちちてみたいと、ち。

「失敗をしても関わりたい」という願いの実現に向けて**粘り強く関わっている姿**として見取ることができる。

児童がこのような記述ができるためには、それに見合った経験(学習活動)が必要だね!



他の教科等についても、確認してみる必要がありそうだね。

Point

「主体的に学習に取り組む態度」を適切に見取るためには、「発問の工夫」や「場面の設定」が必要なため、「指導と評価の計画」をこれまで以上に充実させましょう。

- ※ 評価方法は記述だけに限りません。活動や児童の実態によって様々な評価方法があります。
- ※ 「主体的に学習に取り組む態度」に係る二つの側面は、実際の場面においては、双方の側面を一体的に見取ることも想定されます。
- ※ 「学習評価の在り方ハンドブック」(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター)を参考にしてください。